



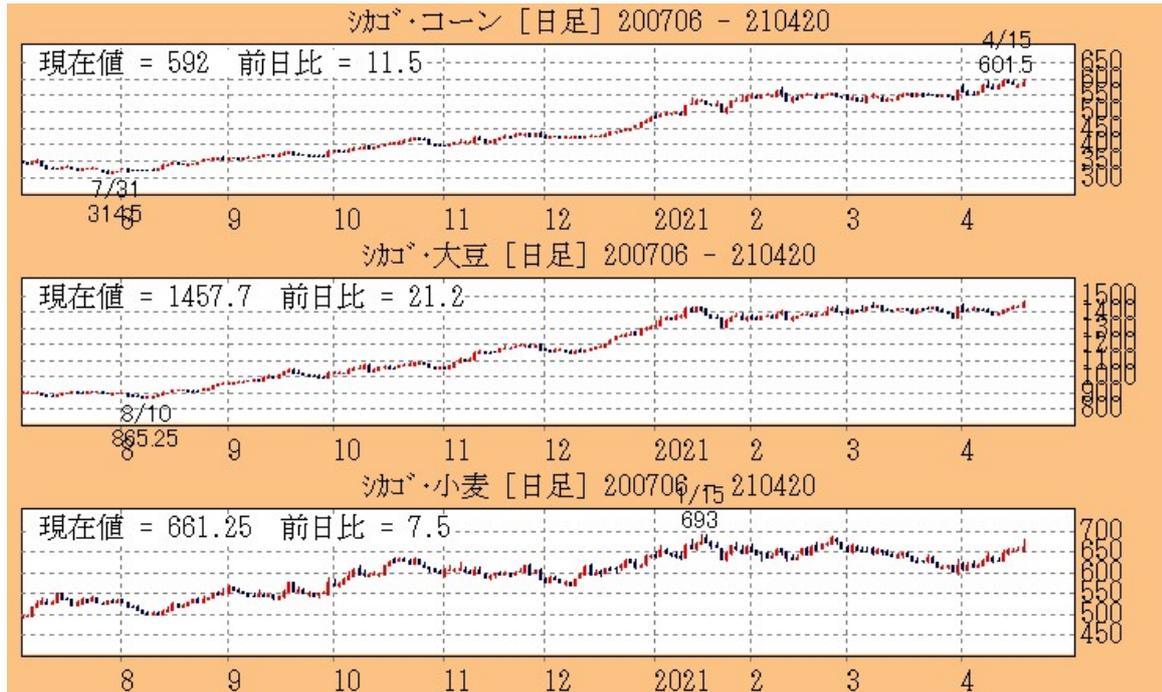
# 週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。  
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシ、大豆は続伸

発行日 : 2021/4/21



20日のシカゴトウモロコシ7月限は前日比+11.50セント高の592.00セントと続伸。取引レンジは580.75セント～597.50セント。期近5月限は前日比15.75セント高の607.75セント。一時611.75セントと期近ベースとして2013年6月以来約8年ぶりの高値を付けた。米中西部産地で氷点下以下となる気温低下を受け、作付けや発芽の遅れ、生育障害を警戒する買いが続き、期近から大幅続伸となった。また、ブラジルでの乾燥した状況や、米農務省（USDA）がメキシコ向けに大口成約を発表したことも支援材料となった。

20日のシカゴ大豆7月限は前日比+21.25セント高の1457.75セントと大幅続伸。取引レンジは1435.75セント～1471.50セント。一時は中心限月として2014年6月以来約7年ぶりの高値となる1471.50セントを付けた。また、22年11月限を除く全限月が一代高値を更新した。世界的な供給逼迫で、大豆と植物油の現物市場の高騰が買いを支援した。また、米産地での作付けは事前予想通りのペースで進行していることが明らかになったものの、気温低下で作付けが遅れるとの見方も強気材料視された。ただ、一時、30セント以上も急伸していたが、利益確定売りに上げ幅を縮小した。

20日のシカゴ小麦7月限は前日比+7.50セント高の661.25セントと反発。取引レンジは651.25セント～679.50セント。米小麦産地の気温が氷点下になるとの懸念を受け、作柄悪化を見込む買いが入った。トウモロコシと大豆相場の上昇も強気材料視された。

## TOPICs Crop Progress

トウモロコシ				18州
Planted (作付)	前年度	2020年度	過去5年平均	
4月4日	2%	2%	2%	
4月11日	3%	4%	3%	
4月18日	6%	8%	8%	

トウモロコシ				18州
Emerged (発芽)	前年度	2020年度	過去5年平均	
4月18日	1%	2%	1%	

大豆				18州
Planted (作付)	前年度	2020年度	過去5年平均	
4月18日	2%	3%	2%	

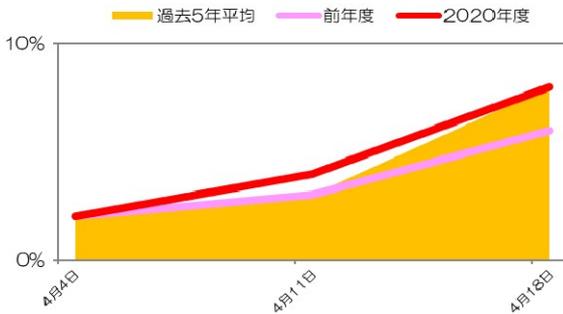


冬小麦			18州
Headed	前年度	2020年度	過去5年平均
4月4日	3%	4%	3%
4月11日	6%	5%	7%
4月18日	13%	10%	14%

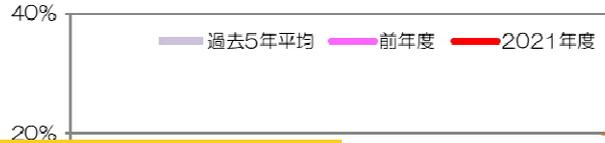
冬小麦						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
4月4日	5%	11%	31%	47%	6%	53%
4月11日	6%	11%	30%	46%	7%	53%
4月18日	6%	11%	30%	46%	7%	53%
前年度	4%	9%	30%	50%	7%	57%

春小麦			6州
Planted (作付)	前年度	2020年度	過去5年平均
4月4日	3%	5%	2%
4月11日	5%	11%	6%
4月18日	7%	19%	12%

4月18日までのトウモロコシ  
21/22年度の 作付 進捗状況



4月18日まで20/21年度米国産  
冬小麦のHeaded進捗状況



TOPICS ブラジルのトウモロコシ by USDA GAINレポート 4月1日

2021年4月5日

千トン・千ヘクタール	13/14年度	前年比	14/15年度	前年比	15/16年度	前年比	16/17年度	前年比	17/18年度	前年比	18/19年度	前年比	19/20年度	前年比	20/21年度	前年比	21/22年度	前年比
収穫面積	15,800	+622	15,750	▲60	16,000	+250	17,600	+1,600	16,600	▲1,000	17,500	+900	18,500	+1,000	19,500	+1,000	20,000	+500
期初在庫	9,150	+3,874	13,972	+4,822	7,842	▲6,130	6,769	▲1,073	14,019	+7,250	9,615	▲4,404	5,292	▲4,323	5,211	▲81	4,211	▲1,000
生産	80,000	+7,269	85,000	+5,000	67,000	▲18,000	98,500	+31,500	82,000	▲16,500	101,000	+19,000	102,500	+1,500	105,000	+2,500	114,000	+9,000
輸入(穀物年度)	800	▲86	800	+0	3,400	+2,600	854	▲2,546	915	+61	1,659	+744	1,648	▲11	2,000	+352	1,750	▲250
輸入(暦年)	846	▲96	534	▲312	1,566	+1,032	2,439	+873	943	▲1,496	1,189	+246	1,303	+114	2,000	+697	1,750	▲250
供給合計	89,939	+11,143	99,303	+9,364	78,265	▲21,038	106,123	+27,858	96,934	▲9,189	111,974	+15,040	109,440	▲2,534	112,211	+2,771	119,961	+7,750
輸出(穀物年度)	20,967	▲500	34,461	+13,494	13,996	▲20,465	31,604	+17,608	24,341	▲7,263	39,766	+15,425	35,229	▲4,537	37,000	+1,771	40,000	+3,000
輸出(暦年)	22,041	+9,356	21,909	▲132	35,382	+13,473	19,794	▲15,588	25,115	+5,321	39,078	+13,963	34,138	▲4,940	36,000	+1,862	38,000	+2,000
飼料用その他	46,000	+1,000	48,000	+2,000	49,000	+1,000	51,000	+2,000	54,000	+3,000	57,000	+3,000	58,500	+1,500	60,000	+1,500	60,500	+500
食料用需要	9,000	+1,500	9,000	+0	8,500	▲500	9,500	+1,000	9,500	+0	1,000	▲8,500	10,500	+9,500	11,000	+500	11,500	+500
国内需要合計	55,000	+2,500	57,000	+2,000	57,500	+500	60,500	+3,000	63,500	+3,000	67,000	+3,500	69,000	+2,000	71,000	+2,000	72,000	+1,000
期末在庫	13,972	+9,143	7,842	▲6,130	6,769	▲1,073	14,019	+7,250	9,083	▲4,926	5,208	▲3,885	5,211	+3	4,211	▲1,000	7,961	+3,750
期末在庫率	18.4%	+0	8.6%	▲9.8%	9.5%	+0.9%	15.2%	+5.8%	10.4%	▲4.9%	5.1%	▲5.3%	5.0%	▲0.0%	3.9%	▲1.1%	4.2%	+0.3%
生産+輸入(①)	80,789	+7,269	85,331	+4,542	70,423	▲14,908	99,354	+28,931	82,915	▲16,439	102,659	+19,744	103,700	+1,041	107,000	+3,300	114,000	+7,000
国内消費+輸出(②)	75,967	+2,000	91,461	+15,494	71,496	▲19,965	92,104	+20,608	87,841	▲4,263	106,078	+18,237	103,138	▲2,940	107,000	+3,862	110,000	+3,000
需給バランス(①-②)	+4,822	+5,269	▲6,130	▲10,952	▲1,073	+5,057	+7,250	+8,323	▲4,926	▲12,176	▲3,419	+1,507	▲1,700	+1,719	+1,719	+3,419	+1,700	▲19
単収					4,187.5	+4,187.5	5,596.6	+1,409.1	4,939.8	▲6,658	5,771.4	+831.6	5,540.5	▲2,230.9	5,384.6	▲1,155.9	5,700.0	+315.4



## ブラジルの20/21年度のトウモロコシ生産量は過去最大の1億500万トン

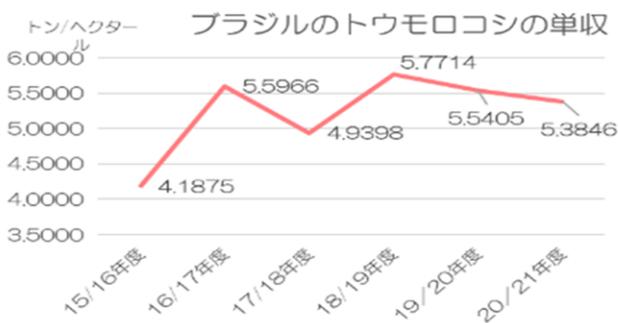
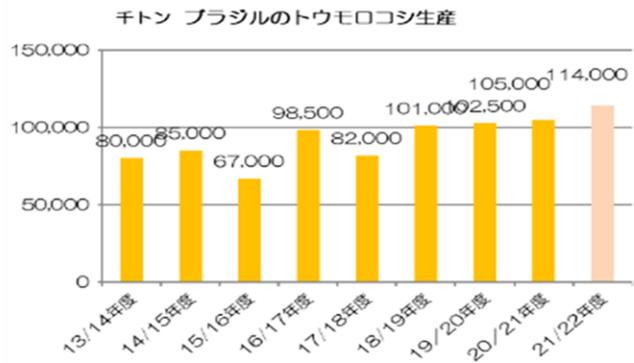
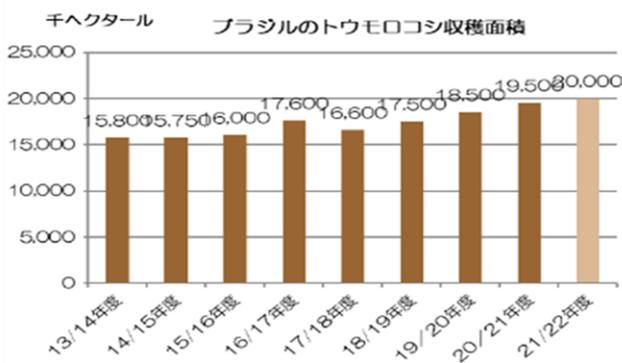
### トウモロコシ生産量

USDAは2020/21年度（2021年3月～2022年2月）のトウモロコシ生産量予測を1億500万トンに据え置いている。これは、1期作目のトウモロコシの生産量が予想を下回り、2期作目の「サフリンハ」と呼ばれるトウモロコシの作付けが大幅に遅れていることによる。19/20年度を+2.4%上回り、ブラジルのトウモロコシ生産量の新記録となる。

干ばつで一期作目の単収が低下し、二期作目の作付けが遅れた。  
それでも価格が上昇しているため、農家は作付面積を増やしている

### トウモロコシの収穫面積

2020/21年度のブラジルのトウモロコシ収穫面積を100万ヘクタール（MHa）上方修正し、史上最高の1,950万ヘクタールに達すると予想している。遅植えのサフリンハの収量が懸念されているが、遅植えのサフリンハ種の収量が懸念されているにもかかわらず、生産者は記録的なトウモロコシ価格に刺激され、トウモロコシの栽培面積を拡大している。養鶏・畜産部門からの旺盛な国内需要と、トウモロコシエタノール産業の成長により、ブラジル国内のトウモロコシ消費量は大幅に拡大している。



## 国内飼料用需要が旺盛で価格が高止まり

### ブラジル国内価格上昇

旺盛な国内需要に加えて豊富な輸出量により、ブラジルのトウモロコシ国内価格はここ数カ月間で記録的な高値を記録し、2021年も堅調に推移すると予想されている。

ブラジル政府は2021/22年度（2022年3月～2023年2月）のトウモロコシ生産量は114百万トンと予想している。これは、USDAの予測を+8.6%上回る。また、トウモロコシの栽培面積は50万ヘクタール拡大し、合計2000万ヘクタールになると予測している。

USDAはブラジルのトウモロコシ価格は、内外の旺盛な需要を考慮すると、少なくとも2021年末までは高値で推移すると予想している。

今年と同様に、ブラジルの生産者は2021/22年度にトウモロコシの作付けを拡大するインセンティブを得るだろう。2021/22年度も、ブラジルの生産者は、特に中西部でのトウモロコシの作付けを拡大することになるだろう。収量を考慮すると、ブラジルのトウモロコシ生産量は、これまでのトウモロコシ生産の記録を簡単に破ることができる。しかし、来シーズンの結果はサフリンハのトウモロコシの植え付けが予定通りに行われるかどうかと、通常の日候パターンにかかっている。

### ブラジルのトウモロコシ単収の変化



Data Source: USDA/FAS PSD Online  
Chart: FAS Brasilia



## 19/20年度のブラジルのトウモロコシ生産州



### 北部のトウモロコシ

Data Source: CONAB

Graphic: FAS Brasilia

トウモロコシは、11月から12月に収穫される。この生産は、以前はサフリンハ・コーンと一緒に行われていたが、植え付けと収穫の時期が異なることから、CONABはこの集計を分離することにした。

第3作目のトウモロコシは、ブラジルの総生産量の約1%、面積では約2%である。ブラジル北東部の収量と生産量は、予測不可能な降水量に左右されるため、大きく変動する可能性がある。

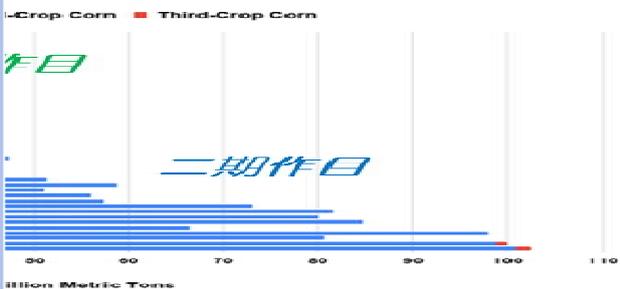
### 南部のトウモロコシとサフリンハ

トウモロコシはブラジルのすべての州で栽培されており、国土の広さと地理的な多様性を考慮すると、トウモロコシの作付けと収穫の時期もいくつかに分かれている。

伝統的に、トウモロコシはブラジル南部の主食作物だった。同地域に集中している家畜・家禽部門を支えるために栽培されてきた。ブラジル南部のトウモロコシは、通常、9月から12月の間に植えられて、1月から5月にかけて収穫される。南部はトウモロコシは、最初に収穫されるため、現在では年間3回あるトウモロコシのうちの最初の作物と考えられている。「フルシーズン」または「サマーコーン」とも呼ばれている。現在、ファーストクロップのトウモロコシはブラジルの総生産量の4分の1を占めるに過ぎない。

1970年代から1980年代にかけて、農業生産が中西部地域に拡大していった。温暖な気候と雨期の長さから、ブラジルの農家は同じ土地で年に2つの作物を植えるようになった。温暖な気候と雨季の長さから、夏に大豆を栽培した後、同じ土地でトウモロコシを栽培するのが一般的だった。このトウモロコシの栽培は、セカンドクロップまたはウィンターコーンとして知られているが、ポルトガル語で「小さな収穫」を意味する「サフリンハ」とも呼ばれている。しかし、中国の旺盛な需要を受け、収益性が高いことから大豆の栽培が拡大したため、大豆の収穫後に同じ畑に植える第二の作物として最も人気がある。現在、ブラジルのトウモロコシ生産量の約4分の3サフリンハ・コーンで占められている。ブラジル南部の生産者の多くは、1年に1回しか作物を植えられないため、このシェアは拡大し続けている。サマーコーンの代わりに大豆を播くことを選択しているため、この割合は増え続けている。サフリンハ種のトウモロコシは、通常、1月から3月に播種され、6月から9月に収穫する。

### トウモロコシ生産量





ブラジルのトウモロコシの生産時期												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1期作目	収穫								作付		生育	
2期作目	作付		生育		収穫							
北部での生産					作付		生育		収穫			

### 20/21年度の干ばつ

2020/21年のファーストクロップのトウモロコシサイクルでは、ラニーニャ現象による極端な乾燥のため、ブラジル南部の大部分が干ばつに見舞われた。

2020年8月から11月にかけて、ブラジル南部の大部分が干ばつ状態となった。ブラジル南部の農家は、最初の作物であるトウモロコシを早めに植えたところ、土壌水分が非常に少なく、収穫開始が遅れた。この乾燥した状況は、多くの生産者にとって発芽・生育を阻害した。この影響はすべてではないが、リオデジャネイロ州南部のいくつかの地域の農家や、リオ・グランデ・ド・スル州とサンタ・カタリーナ州の南部のものは、一期作目のトウモロコシの収量が大幅に減少した。生産者の中には、干ばつで大きな被害を受けたトウモロコシ畑に再播種することを選んだ農家もいれば、トウモロコシを完全に植え替えて代わりに大豆を植えることを選んだ農家もある。シーズン後半に植えた生産者は、ブラジル南部では平年並みかそれ以上の降水量があったため、干ばつの影響をそれほど受けなかった。

### 3月末の一期作目の収穫は45%完了で、前年比減

全国的には、3月下旬時点でファーストクロップのトウモロコシの収穫は約45%完了している。CONABのデータによると、ファーストクロップのコーンを生産している5大州は、すべて前年比で収穫量が減少している。

収穫が半分終わった南東部のミナス・ジェライス州は、平均生産性が▲2.6%低下したにもかかわらず、生産量ではファーストクロップコーンの最大の生産地となった。一方、南部のリオグランデスル州（収穫面積の67%）は、ファーストクロップコーンの作付面積が最大だったが、CONABのデータによると、収量が前年比▲10.5%減少したことにより、ファーストクロップコーンの生産量は約▲40万トン減少した。

CONABのデータによると、南部のパラナ州（収穫面積の76%）とサンタ・カタリーナ州（収穫面積の84%）でも、それぞれ▲13.4%と▲29.4%の大幅な収量減となった。CONABのデータによると、ブラジルのファーストクロップコーンの総量は、前年比で▲200万トン以上減少している可能性がある。これは、ファーストクロップコーンに大きく依存するブラジルで成長中の鶏肉および豚肉産業にとって大きな打撃となった。収穫が完了した2020/21年度のファーストクロップコーンの生産量は約2,300万トンになるとUSDAは予想している。

### 一期作目の収穫減で価格高騰

ファーストクロップコーンの生産量の減少は、ブラジルの家禽・豚肉産業、特に南部のサンタカタリーナ州の家禽・豚肉産業を悩ませ続けている。特に、南部のサンタ・カタリーナ州には、国内最大級の鶏や豚の飼育場がある。同州では、業界が必要とするトウモロコシの約半分しか生産できていない。そのため、養鶏・畜産業では頻りにパラグアイから輸入している。隣国からトウモロコシを運ぶ方が、マトグロッソなどブラジル中部の高生産地から国内北部からトウモロコシを運ぶよりもはるかにコストが低いからである。サンタ・カタリーナ州の経済は、アグリビジネスに大きく依存している（GDPの30%、輸出の70%）。

そのため、サンタ・カタリーナ州政府は、トウモロコシなどの穀物栽培を促進するために、2,400万リアル（410万米ドル）を拠出した。このプログラムでは、サンタ・カタリーナ州の農家に高収量のトウモロコシの種を20万袋配布したり、州内の電気・交通インフラを整備するための投資を行う。サンタカタリーナ州では、飼料需要を満たすためには、他州や他国から約500万トンのトウモロコシを高値で購入する必要がある。同州の鶏肉生産者は、飼料の入手が困難なために鶏の体重が減少していることを懸念している。業界関係者によると、トウモロコシはサンタカタリーナ州の鶏肉生産コストの約40%を占めており、高価格が利益を圧迫している。

### 二期作目の作付け遅れ

ブラジルのサフリンハ種のトウモロコシは、乾燥気候の影響を受けることが予想される。また、ブラジルの大豆は、南部および中西部地域での播種が大幅に遅れ、大豆の収穫が数週間遅れた。その影響で、サフリンハトウモロコシの植え付けが大幅に遅れており、収穫量に重大な影響を及ぼす可能性がある。業界関係者によるとサフリハトウモロコシの作付けペースは、少なくとも過去10年間で最も遅かったという。

ブラジルのサフリンハ・コーンの成否は、大豆の収穫ペースに左右される。農家は、播種の遅れによる天候上のリスクを避けるために、サフリンハの収穫を急いでいる。3月下旬現在、ブラジルのサフリンハのほぼ全量が作付けされているが、その多くは、各地域の理想的な作付け時期を過ぎてから播種された。最も早い時期のMato Grosso do Sul（マトグロッソ・ド・スル）州南部とParana（パラナ）州南部では、2月の第3週頃に終了した。パラナ州南部では、6月と7月に氷点下の気温になる可能性があるため、最も早い時期に2月の第3週頃に終了しなければならない。Mato Grosso州とGoias州では、2月下旬に理想的な収穫時期を迎える。

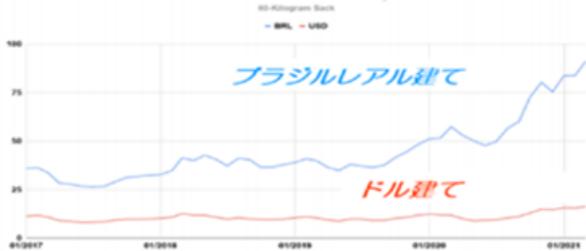
5月初旬の乾季開始時の雨が止む前に、作物が成長するのに十分な水分を確保するためである。この時期以降に植えられたトウモロコシは、リスクがかなり高くなり、政府が保証する保険プログラムの作物損害支払いの対象とならない場合がある。



## ブラジル国内のトウモロコシ価格高騰

ブラジル国内のトウモロコシ価格は、記録的な高値で推移している。トウモロコシは現在、ブラジル商品取引所（Brazilian Mercantile & Futures Exchange：BM&F）で史上最高値で取引されている。3月の平均価格は、トウモロコシ 60 キロ袋あたり 91.13 レアル（1 ブッシェルあたり 6.87 米ドル）だった。これは、2020年3月の平均価格よりも+59%高く、2019年3月の平均価格よりも+129%高くなっている。

ブラジル商品取引所のトウモロコシ価格



Date Source: University of Sao Paulo Center for Advanced Studies in Applied Economics (CEPEA)  
Chart: FAS Brasilia

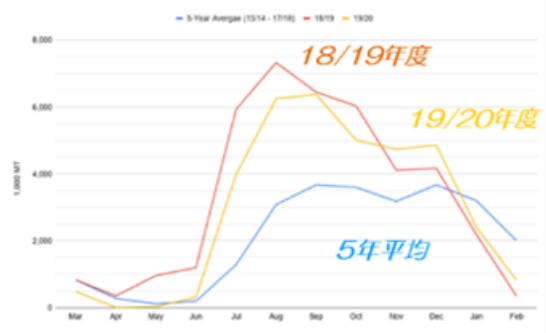
マトグロッソ州のトウモロコシ価格



Date Source: CONAB  
Chart: FAS Brasilia

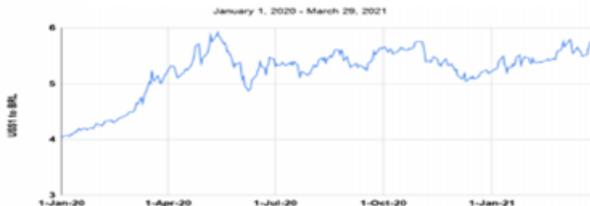


ブラジルからの月別トウモロコシ輸出量



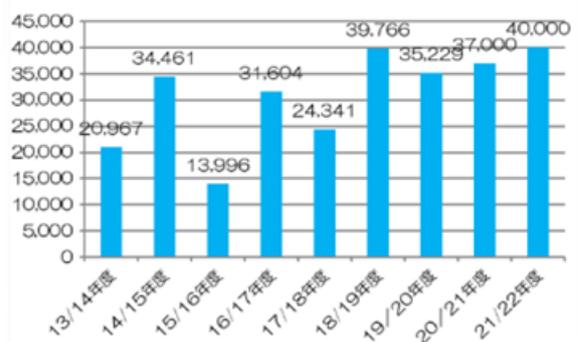
Date Source: Brazilian Foreign Trade Secretariat (SECEX)  
Chart: FAS Brasilia

ブラジルレアルに対するドルレート



Date Source: University of Sao Paulo Center for Advanced Studies in Applied Economics (CEPEA)  
Chart: FAS Brasilia

千トン ブラジルのトウモロコシ輸出

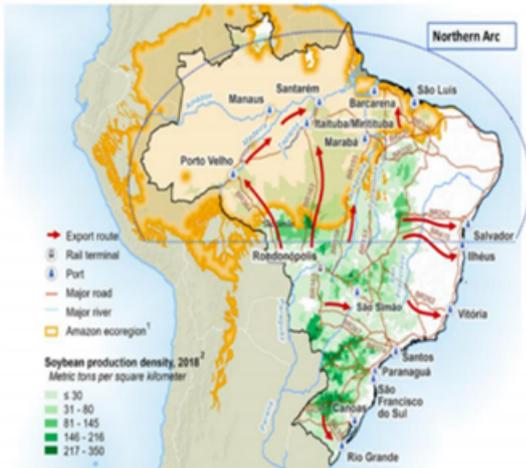


## トウモロコシの輸出は増加

2020/21年度のトウモロコシ輸出予測を37百万トンに維持しており、これは前年比 ▲5%の減少である。ブラジルレアルの低迷により、大量の輸出が見込まれるが、国内需要の増加により、海外での販売の上乗せが制限されると予測している。21/22年度のトウモロコシ輸出量は、当初40百万トンと予想している。これは、生産量の拡大が見込まれることに加えパンデミックによるGDP成長率の鈍化によりブラジルレアルが低迷する可能性を考慮したものである。しかし、在庫が減少し、家禽・畜産業の内需が拡大していることから、輸出可能なトウモロコシの量を抑制する可能性がある。通常、マトグロッソ州のトウモロコシは、その大部分が輸出市場向けであった。IMEAのデータによると20/21年度のマトグロッソ州のトウモロコシの約70%が3月中旬の時点ですでに売却されており、同時期の5年平均の57%を大きく上回っている。マトグロッソ州の21/22年産トウモロコシは、そのほとんどが約1年後に作付けされるが、これも急速に先物売りとなり、過去5年平均の3%に対し、13%が売却されている。



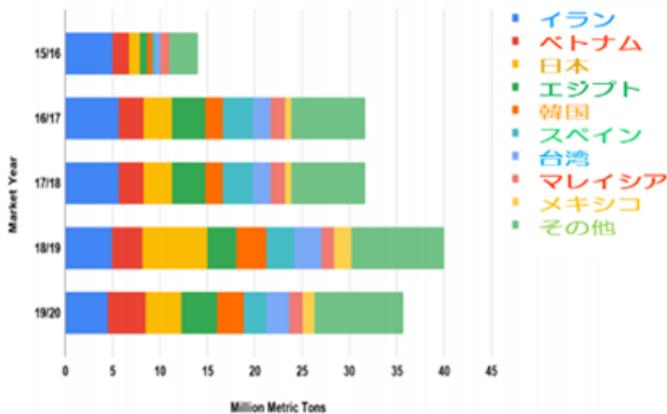
## 道路舗装の影響



Source: USDA/Agricultural Marketing Service (AMS)

マトグロッソ州のトウモロコシ輸出見通しに影響を与えている主要因のひとつは、大豆ハイウェイと呼ばれる BR-163 の舗装が完了したことである。この道路は、マトグロッソ州を北上し、パラ州へと続く1,000km以上の道路である。大手穀物商社がはしけ船を出しているミリティトゥーバのリバーターミナルに至っている。2019年11月下旬、ブラジル政府は最後の数キロの舗装を完了した。道路が作られてから40年以上もかかった偉業である。しかし、BR-163を降りた後、トラックはBR-230（アマゾン横断道路）の30kmの区間を通過しなければならない。高速道路（トランス・アマゾニアン・ハイウェイ）を30kmほど走って、ミリティトゥーバに到着する。2月初旬、この道路が大雨による泥水で一時的に通れなくなった。この事故により、1万台以上のトラックが川沿いの港に向かう途中で立ち往生し、ブラジルの道路がいかに脆弱であるかを露呈した。しかし、BR-163が舗装されたことで運賃が下がり、ブラジル産のトウモロコシや大豆の国際競争力が高まった。2019年7月から2020年7月まで、マトグロッソ州ソリーゾからパラ州ミリティトゥーバまでのトラック運賃は、約13%下落し、1トンあたり平均205.18リアル（38.69米ドル）となった。2019年7月の平均236.35リアルに比べ、約13%下落している。その結果、マトグロッソ州からブラジルの北アークを経由して輸出されるトウモロコシの量が大幅に増加した。

### ブラジルの向け先別ウモロコシ輸出量



Data Source: Brazilian Foreign Trade Secretariat (SECEX)  
Chart: FAS Brasilia

## 主要輸出先は7カ国

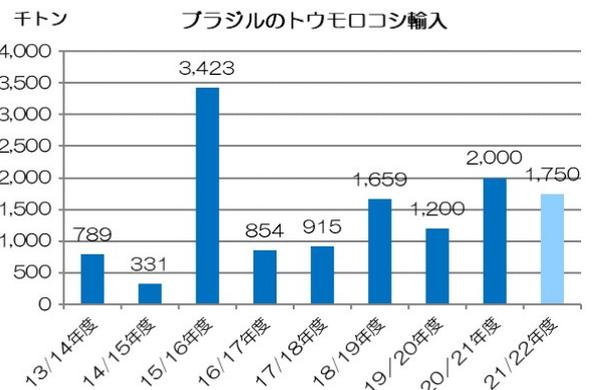
19/20年度にブラジルが75の異なる海外市場に輸出した35 MMTのトウモロコシのうち、3分の2以上（24百万トン）がわずか7カ国に輸出された。

ブラジル産トウモロコシの輸出先上位国は、イラン（450万トン）、ベトナム（400万トン）、日本（380万トン）、エジプト（370万トン）、韓国（280万トン）、スペイン（240万トン）、台湾（240万トン）であった。

## トウモロコシの輸入量

20/21年度のトウモロコシ輸入量を200万トンと予想している。この予測は、ブラジルの養鶏・畜産セクターの強い内需と急激な輸出ペースによる在庫減少の懸念の高まりによる。21/22年度については、175万トンと見ている。これは、養鶏・畜産セクターの需要拡大を見込んだものだ。これは、今年の市場では生産量が増加し、国内で消費される割合が大きくなると予測しているためである。ブラジルのトウモロコシの輸入は、19/20年度の下半期に急増し、10月から2月にかけて合計140万トン近くが輸入された。これは、家禽や家畜の生産者が家畜用の飼料調達に苦労したためである。これを受けて、ブラジル政府は2020年10月16日に、トウモロコシと大豆の輸入関税の停止を発表した。メルコスール圏外の国からのトウモロコシと大豆の輸入関税を停止することを発表した。8%の

トウモロコシに対する関税は、2021年3月31日までのすべての輸入品に対して撤廃され、免税数量を制限する枠は設けられなかった。その数週間後の2020年11月3日、MAPAは遺伝子組み換え（GE）トウモロコシと大豆の輸入を促進するために、輸入ライセンスに記載しなければならない情報を変更する新規則を発表した。しかし、この官僚的な策略は、バイオイベントの承認プロセスを変えるものではなかった。バイオテクノロジー・イベントの承認プロセスは、独立した機関である国立技術生物安全委員会（CT）が担当している。





## トウモロコシの国内消費

20/21年度のトウモロコシ消費量予測を、前年度比+3%増の7,100万トンに据え置いた。この増加は、中国やその他の輸出市場からの旺盛な需要に対応して、ブラジルの畜産・家禽産業が引き続き拡大するとの予測に基づいている。21/22年度のトウモロコシ消費量は、7,200万トンと予想。家禽・畜産セクターの継続的な成長と、ブラジルにおけるトウモロコシエタノール生産のさらなる拡大を見込んだものである。

世界最大の鶏肉輸出国、世界第4位の豚肉輸出国となったブラジルでは、過去20年間でトウモロコシの消費量が約2倍になった。ブラジルの大規模な鶏肉・豚肉セクターは、毎年のトウモロコシの収穫量の大部分を消費している。また、飼料の約60%をトウモロコシが占めている。2020年暦年では、ブラジルの鶏肉と豚肉の生産量は着実に増加している。2021年の鶏肉生産量は+1.7%増加し、1,415万トンに達する見込み。また、豚肉生産量が2021年に+3.3%増加すると予測。記録的な豚肉輸出と、国内需要の伸びによるもの。ブラジルの動物栄養業界の全国連合（ポルトガル語でSindiracoos）によると、豚肉の飼料消費量は家禽部門の半分程度だが、それでも急速に増加している。

### 飼料需要増加

2020年の飼料の総生産量（トウモロコシやその他の原料を含む）は、+4.7%増の8,110万トンになるとのこと。プロイラー鶏用飼料の生産量2020年に+3.5%増加し、産卵鶏用飼料の生産量は+5.5%、豚用飼料の生産は+5%の伸びを示した。このセクターの急成長は2021年も、トウモロコシを含む合理的な価格の飼料原料を確保できれば、急成長は続くと予測される。

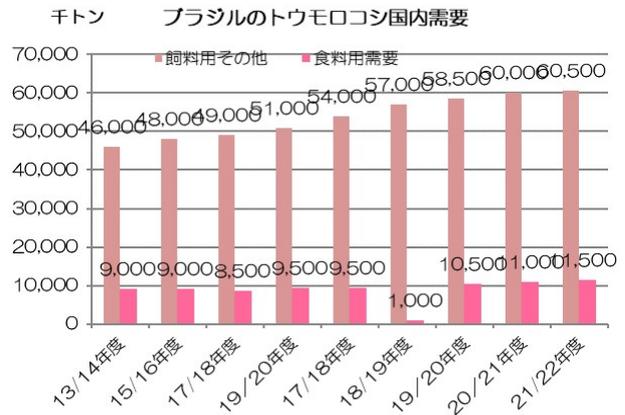
### 食品・種子・工業用（FSI）の消費量もエタノールが

20/21年度のブラジルの食品・種子・工業用（FSI）の消費量は、1,100万トンとなり、さらに、21/22年度には1,150万トンに拡大すると予測。ブラジルのトウモロコシエタノール産業は比較的小規模だが、拡大を続けている。パンデミック発生時には、ブラジルの燃料消費量が減少し、エタノールの価格が下落した。しかし、2020年の第3四半期には、ブラジルの人々が日常生活を取り戻し始めたことで、エタノール産業は回復し始めた。ブラジルのトウモロコシエタノール産業は、昨年も生産能力の増強を続け、新たな投資を呼び込んでいる。今後数年間で稼働する予定です。

ブラジルのトウモロコシエタノール連合（UNEM）は、2020年にこの分野で約25億リットルのトウモロコシベースのエタノールを生産すると推定している。2020年には、約25億リットルのトウモロコシベースのエタノールを生産し、その過程で約600万トンのトウモロコシを消費すると予測している。この数字は、2019年の生産量の約90%に相当する。ブラジルには、主に中西部のマトグロッソ州、ゴイアス州、マトグロッソ・ド・スール州に、推定16のトウモロコシエタノール工場がある。そのうち少なくとも4基はトウモロコシのみのプラントで、残りはサトウキビとトウモロコシの両方からエタノールを生産するフレックスプラントである。

業界関係者によると、この他にも少なくとも7つのトウモロコシベースのエタノールプラントが計画、開発、建設段階にあり、今後2年間で生産を開始する可能性があるという。現在進行中のプロジェクトがすべて計画通りに建設された場合、ブラジルのトウモロコシエタノール生産量は年間55億リットルを超える可能性がある。年間1300万トン以上のトウモロコシを消費することになる。

UNEMの予測によると、2028年には80億リットルの生産量になり、ブラジルのエタノール生産量の5分の1を占め、その過程で2,000万トンのトウモロコシを消費することになる。ブラジルでのトウモロコシエタノール生産の成長性は、地域の燃料需要と余剰燃料を国内の他の地域に輸送する際の物流上の課題と収益性によって制限されている。生産は中西部地域に集中しているが、ブラジル北部の少なくとも10の州にトウモロコシベースのエタノールを販売している。また、ブラジル北東部沿岸の人口密集地への流通機能の拡大も視野に入れている。また、この業界では昨年、トウモロコシ由来のエタノールが初めて海外で販売され、EUへの燃料用エタノールの輸出が完了した。EUに燃料用エタノールを輸出し、バルーとチリには工業用エタノールを出荷した。ブラジルにおけるトウモロコシ価格の高騰は、トウモロコシエタノール部門のマージンに悪影響を及ぼしているのは間違いないが、このセクターではDDGS（dried distillers grains with solubles）やコーンオイルなどの副産物の市場拡大している。





## 今後の予想

ブラジルではラニーニャの影響で昨年春から夏にかけて乾燥した天候となり、トウモロコシの一期作目の単収が低下し、収量が予想を下回った。また大豆の作付けが遅れたため、収穫の遅れとなり、二期作目のトウモロコシの作付けが遅れた。農家はトウモロコシ価格が高騰しているため、少々収量が減ることを前提で、リスクを侵して作付けを行っている。従って5月の天候によっては、二期作目の収量は予想より減少する可能性を秘めている。一方、ブラジルリアル安によって、ブラジル産の家禽や豚肉の輸出が旺盛であり、飼料需要が増加している。それがトウモロコシの需要を拡大し、価格を押し上げている。この傾向は21年も続くとUSDAは見ている。ブラジルだけを見る限り、今後もトウモロコシの需給が緩むことは無さそうである。

## ご案内

### You -Tubeで金や原油の動画解説中

毎週月曜日午後8時 Gold TV netにて金やプラチナ・原油の解説をYou Tubeの動画で近藤 雅世と小針秀夫が行っております。サイトは『Gold TV net』検索ください。 <https://gold-tv.net/>

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

発行元：



COMMODITY  
INTELLIGENCE

株式会社コモディティー インテリジェンス4東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310  
 会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692  
 メールアドレス：kondo@commi.cc